

寄贈していただいた新刊本
やCDを紹介しています

ほかほかソフト

CALENDAR



脱原発カレンダー

【子どもたちの未来を放射能から守る愛媛の会/A4版・見開きA3版/カラー/¥1000/→090-3788-4467 Fax.089-947-6947】

脱原発ポスター展を愛媛で開催すると共に作られた2012年のめくりカレンダー。ポスター展に出された作品が12枚見られる。売り上げはポスター展開催や福島に寄付される。伊方原発年表も載っている。

ムーンカレンダー

【ノマド/30cm×30cm/¥2100/→キャンオンアンドビー 03-3497-0590】

金具をいっさいつかわないシンプルなつくりで、月の満ち欠けが一目でわかるカレンダーです。

BOOK

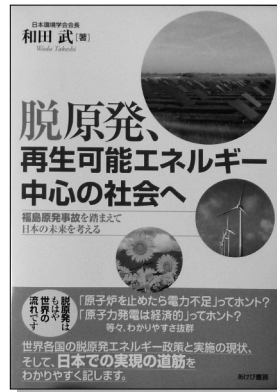


デモいこ!

【TwitNoNukes編著/A5版 63p/¥735/河出書房新社】

原発事故後、ツイッターで知り合い、

毎月都内でデモを開催してきたグループが作った小冊子。これまでデモや政治活動とは無縁だった人たちのためのデモ実践ガイドブックで、しかも思わずデモに行きたくなるような楽しくてオシャレな内容。



脱原発、再生可能エネルギー中心の社会へ

【和田武著/A5版 108p/¥1400+税/あけび書房】

今月号p2~p4に登場の日本環境学会会長の和田氏の最新刊。タイトルの内容を初心者にもわかりやすくまとめている。

編集室より

新聞の発行め切

次号=No.171(2012年3/4月号)は2月末に発行予定です。「こよみ」欄や広告、「コミュニケーションコーナー」等の情報は2月10日までにお送りください。

定期購読について

本紙は年に6回、隔月(奇数月)に発行しています。毎号確実にいち早く読みたい方は、手元に直接届く定期購読をお申込み下さい。1年間6号分・送料込で¥3000(10号分は¥5000)です。第何号からの購読をご希望か、また新規か継続かを通信欄にお書きの上、右記口座まで購読料をお振込み下さい。

なお数部まとめた購読はグンとお得です。(但し同じ住所に送る場合のみ) 年間で2部/¥5400、3部/¥7200、4部/¥8400。5~9冊は送料サービスで2割引、10冊以上は3割引となります。近所のお友達やグループでどうぞ。

広告募集

料金は最小マス1/16p=下の広告を参照=が¥5000から、スペースが倍になるとに料金も倍になります。5回以上の連載は2割引となり版下製作もサービスします。申込み締め切りは発行月の前月中旬です。(次号は2月10日)

＊ゆうちよ銀行口座 10120-24228841「ハマダヒカル」

BAR BER NAGOYA

なごやしずえ理容室

S・Nシャンプー&リンス

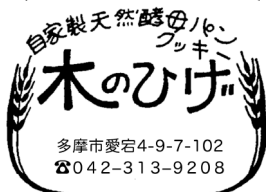
アトピー・アレルギーの
理容師が開発した
薄毛に効く石けんシャンプー

各300ml=¥1200/1ℓ=¥3200

〒153-0052 東京都目黒区祐天寺2-8-3 TEL.03-3711-0913 FAX.03-3711-0916
E-mail: nagoya@sn-shampoo.com

www.sn-shampoo.com

わたしたちのパンの
主原料は
大地のスピリットです
あなたも
受け取って下さい

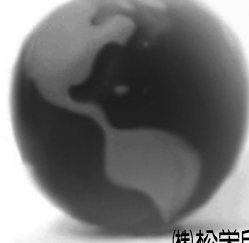


多摩市愛宕4-9-7-102
☎042-313-9208

地球にやさしい印刷

大豆インクや非木材紙を
使った印刷をしてみませんか?

小部数(オンデマンド)印刷もご相談下さい。



(株)松栄印刷所

〒790-0003 愛媛県松山市三番町7丁目9-2
TEL(089)941-3334 FAX(089)933-7911
E-mail: mshoei@plum.ocn.ne.jp

今こそ、唄と踊りの心、心の故郷を、取り戻したい。霞ヶ関を囲んで、「会津磐梯山」を踊ったのでしよう。先住民は、音楽や踊りを通して、すべてを手放し、すべてと一体化することを体験しながら、時空を調整していったのです。その時空こそが、「心の故郷」なのです。

私は、福島県を何度か旅しましたが、その自然の美しさを忘れることができません。それと、思い出深いのが、「会津磐梯山」の盆踊り。とても単純な振り付けで、踊っているうちに気分が高揚し、そのうち身体が勝手に動いていきます。ネットで福島の現状を目にするにつれ、一刻も早く避難していただきたいと思わずにはいられません。旧・会津藩エリアの方々は、「会津磐梯山」の踊りを身につけて、日本の古い輪踊りの特徴に、歌詞をアレンジしていく点も挙げられます。昔、芸能は、ニュースやドラマのように、庶民による庶民のためのマスコミでもありました。なので例えば「会津磐梯山」の民謡の場合、「朝寝、朝酒、朝風呂、それで身の上ぶした、あ、もつともだ」という小原庄助さんのお囃子部分がありますが、そこを政府や東電、マスコミを揶揄する表現に変えられたいのです。

故郷は、唄と踊りのなかに、つまり、心のなかにあるもの。どんなに虐げられようが、心の故郷は、絶対に汚されることはありません。祖先とつながりさえすれば、1万年経とうが、忘れ去られることはありません。どうか、唄と踊りの心をもって、心の故郷を守るためにも、避難して頂きたい、そう思うのです。

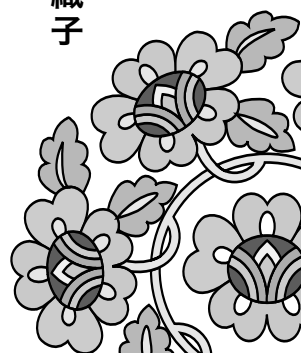
今こそ、唄と踊りの心、心の故郷を、取り戻したい。霞ヶ関を囲んで、「会津磐梯山」を踊ったのでしよう。先住民は、音楽や踊りを通して、すべてを手放し、すべてと一体化することを体験しながら、時空を調整していったのです。その時空こそが、「心の故郷」なのです。

私も、福島県を何度か旅しましたが、その自然の美しさを忘れることができません。それと、思い出深いのが、「会津磐梯山」の盆踊り。とても単純な振り付けで、踊っているうちに気分が高揚し、そのうち身体が勝手に動いていきます。ネットで福島の現状を目にするにつれ、一刻も早く避難していただきたいと思わずにはいられません。旧・会津藩エリアの方々は、「会津磐梯山」の踊りを身につけて、日本の古い輪踊りの特徴に、歌詞をアレンジしていく点も挙げられます。昔、芸能は、ニュースやドラマのように、庶民による庶民のためのマスコミでもありました。なので例えば「会津磐梯山」の民謡の場合、「朝寝、朝酒、朝風呂、それで身の上ぶした、あ、もつともだ」という小原庄助さんのお囃子部分がありますが、そこを政府や東電、マスコミを揶揄する表現に変えられたいのです。

なまえのある家「わのわ」

心の故郷

近藤 夏織子



3・11以降、心新たに生き直す時代に入ったと感じています。「心新たに」とは、過去を切り捨てるのではなく、むしろ「本来の道に還る」ことを意味するように思うのです。2年あまり前、私は子どもを連れて離婚しました。それも、この3・11の節目を予感していたからなのかもしれないと感じることがあります。離婚には、いくつか大きな理由がありました。そのうちのひとつが、「わが子に食事をつくってあげたい。母として生きたい」というものでした。それまでの12年間、私は自由に台所を使えない状態にありました(車も)。しかし、もうこれ以上、先延ばしにはできないと決意して、すべてを捨てて、母としての人生を選択しました。

以来ずっと、「生きること」子どもとの食事を「くくること」というほどに私にとって料理は不可欠なものになっています。どこに出かけるときも(たまに町に食材の買出しに行くときも)、お弁当&水筒持参。この2年あまりの間、現パートナーの帰省先を除くと、家族で外食したのは1度だけです。

そして今、母としての人生を選択して、本当によかったと思うのです(こんな母を受け入れてくれて、子どもに、ありがとう..涙)。3・11以降、料理法が大きく変化しました。基本的に地元野菜を使った菜食料理でしたが、さらに意識して食材を選び、乳酸菌、EM菌、糠づけ、RO水などを使い、野菜の皮もしっかりと剥く下ごしらえに変わりました(乳酸菌とEM

は、風呂と洗濯にも使用)。風向きを調べて洗濯物の干す場所を変える、布団はガラス戸を閉め

た縁側で干すなど、日々の習慣も変わってきました。子どものために、自分自身の習慣を変えるのは、難しいことではありません。

しかし、子どもに伝えるべきことがとても多くなってきた、その点に関しては、考え込んでしまうことも少なくありません。子どもに「嘘をついてはいけない」と言う大人自身が、今の日本社会に蔓延する大がかりな嘘を助長している現状。それまで美しい表層に隠されていただけのことなのですが、今は、その嘘が非現実的なままだにあらさまで、子どもたちのストレーナな質問に、謝罪と沈黙で応えてしまうことが少なくありません。

しかし結局は、毎日、元気いっぱい遊びまわり、幸せを広げてくれる子どもたちに、もう感謝しかない、という日々。この朗らかな子どもたちに、どれだけすばらしいものを、どのように伝えていくのが、私のこれからのライフワークになっていくのだと、つくづく思います。

ところで、私は大和高原に暮らし始めてから、地元の古老たちから多くの生活文化の聞き取りをさせていたいただきました。しかしこの激変の時代には、昔の生活文化がますます忘れ去られ、話題に上ることすら少なくなっていくのかもしれない。現に私自身も生活スタイルが変化しました。しかし、このような時代だからこそ、過去の生活文化を語り継いでいかななくてはならないと、強く感じています。

1万年もの間、大移動を重ねながら祖先の心を継承してきたネイティブアメリカンのイロコ

イ族のように、私たちは今こそ、足下の生活文化を記憶し、伝えていく必要があるのではないのでしょうか。私たちは、この先、何万年にもわたって禍根となる核廃棄物を残してしまいました。その事実から、絶対に目をそむけてはいけません。その一方で、何万年にもわたって伝えられてきた、この島国の自給自足時代の生活文化が、高齢化と近代化によって、途絶えようとしています。長く見積もっても、自給自足の経験者たちからの直接の継承は、あと10年以内で不可能になっていくでしょう。未来の何万年と、過去の何万年の変化のハザマに生きる私たちは、とても大きな役割を担っていると感じています。そして何万年の間、続いてきたエネルギー循環型社会は、無数の名もなき庶民によって支えられてきました。歴史上の有名な人は、実質的にその継承に関与していません。むしろ、自給自足を困難にするような政策を一方的に押し付け、庶民からエネルギーを搾取するばかりであった有名人も少なくありません。

ここ大和高原で暮らしていると、記録には残っていないだけで、実際の庶民は、非常に意識の高い人々であったと感じられるのです。百姓であり、職人であり、武術家であり、神官であり、芸能者であった人々。そして、それらすべてを支えた、母たち。近い将来、さらなる激動が訪れるかもしれない今という時代にこそ、自らが名もなき創造者たちの子孫であることを忘れず、生きていきたいと思うのです。

ところで昨年12月、ネイティブアメリカン・フルート奏者のポール・ワグナーさんのコンサートに参加し、リコーダーで共演させていただきました。すべての音楽の源泉は大自然にあること。そして、この世界そのものが、音楽。このことを再認識させてもらった貴重な体験でした。

あと感銘を受けたのが、コンサート後にみんな参加した輪になったの踊りです。ポールさんが属する海に近い地域の部族の踊り、そこ

から一山越えた、山の部族の踊り、5種類ほど。まったく教わる必要がないほどの、非常にシンプルな唄と踊りで、まさに歩き始めた1歳児でも参加できそうな踊りもありました(歌いながら、歌に合わせて、輪になって歩く)。歌いながら単純なしぐさを延々と繰り返して、輪になって踊るうちに、頭の中の思考が解放され、真っ白になっていきます。そのうち変成意識へと導かれていくのですが、それに伴って、その場も変容していきます。

ネイティブ文化のなかには、生活の隅々にスピリチュアルな要素が多々含まれるものですが、特に重要視されるのは、集団での輪踊りでしょう。シャーマンが個人的な修行を重ねて会得する複雑な作業と異なり、集団での踊りは、非常にシンプルな動作と唄の繰り返しになりますが、時と場合によっては、個人のシャーマニクな作業よりも、はるかに広大な作用を生み出します。

その特徴は、何よりもシンプルなこと。特に講師や教師などから事前に教わる必要もなく、輪に加わるだけで、自ずと感染するかのように踊れてしまう単純さ。その動作の意味すら、以心伝心で伝わっていくのです。そこには、ヒエラルキーや上下関係は、まったく存在しません。そして、音楽が生演奏であること。今回、ポールさんが伝えてくれた輪踊りの唄は、「A」や「YA」など、歌詞すらないような非常に単純で短い旋律でした。思考から解放された純粹な魂たちが一体となったとき、その場に大きな作用を及ぼします。

踊りの直後に、自らを通して、大いなる存在(天)と地をつなぐ所作をするのですが、それこそが、きわめて純粹な祈りの時空となるのです。今の日本人が本来の道へと還るために必要なこと。それは、このようなシンプルさ、なのかもしれない。私たちは、思考によってあまりにも複雑な世界を築き上げてしまい、自らをがんにがらめにしてしまった。原発にしろ、TPPにしろ、すべての問題の根は、そこにあるの